



森小学校だより

平成 29年6月1日

学校だより NO.3

学びましょう「こんな森町っていいな」

Let's study my best Mori-machi!



5月30日 会礼の校長の話より

今年の「森もり学」は、5月2日の「森っ子ペア遠足」から始まりました。4年生は、天森橋を渡り向天方から城ヶ平公園に登りました。

4年

ぼくは、城ヶ平に行きました。ペアと謎解きをしなが
ら進みました。頂上に着いてペアと鬼ごっこをして遊
びました。展望台に上って見てみたらいい景色で
した。アクトタワーやエコパスタジアムが見え
ました。あと、かくれ鬼をやったので隠れまし
た。隠れるところがたくさんありました。また、行
きたいです。

4年

ぼくが城ヶ平公園に行つて思ったことは、まだお
ほりがあることです。昔は、おさむらいが山を登
っていたかもしれません。そして、頂上から遠く
まで見えたので、そこから敵を見ていたかも
しれません。なので、昔のものが残つていて
すごいと思いました。

城ヶ平公園は、その昔はお城でした。それも戦のために築いた山城だったのです。ですから、「天方城址・天方新城」とも呼ばれています。

もともと、天方小学校の近くには、「天方本城」がありました。城ヶ平の「天方新城」は、城主の天方氏が、徳川家康軍が攻め込んでくることを予想して、1568年、今から449年前に築いたといわれています。時は戦国時代。全国各地の武将、侍の大将といわれるつわものたちが、自分たちの領地を広げようと戦う戦国の世だったのです。戦は、全国各地で起こりましたが、遠州地方でもさまざまな戦いがありました。

「風林火山」の旗を掲げて勇ましく戦った戦国武将、甲斐国の武田信玄と、戦国時代を戦い抜いた天下人、三河国の徳川家康。森町では、この2人の名武将の軍隊がぶつかり合う戦いが盛んに繰り返されていました。

1569年、天方新城に、徳川家康軍が攻めてきました。天方城の武士たちは死にもものぐるいで戦いましたが、防ぎきれず降参しました。それから、3年後、今度は、武田信玄軍が大軍を引き連れて攻めてきました。ものすごい勢いに恐れおののいた城主は、戦わずして降参しました。この後も徳川軍武田軍が攻めたり守ったりと戦が続く、天方氏は、最後は家康軍に従うようになったそうです。

250メートルの山の上、城ヶ平に立つと、後ろは南アルプスの山々、前は太田川に囲まれ、南は、遙か遠く太平洋や遠州全体も見渡せることから、お城を作るには絶好のポイントであることがわかります。まさに「天空の城」です。城を守るための内堀や外堀も作られています。ふもとには、「城下」という町もありますね。森町には、このような山城が20箇所くらいありました。天方城の他にも、白山城、飯田城、真田城、三倉城、などたくさんあったのです。

森の町は、徳川・武田を始め、多くの戦国武将にとって、重要な地であったと考えられます。森の町は、太平洋でとれた塩や魚を、山を越えて信州（長野県）に運ぶ「塩の道」の真ん中に位置しました。今より大きかった太田川には荷の積み卸し場があり、船が上ったり下ったりして、海のもの山のもの等いろいろな物資が集まってくる場所だったのです。武将たちは、森の市場を人と物と富が集まる重要な場所と考えたのでしょう。家康や信玄などの戦国武将が、天下をとる夢を見て必死になって戦った場所の一つがこの森町であったのだと思います。將軍になる夢を果たした徳川家康と深いかわりがあった森町ってすごいなと思いませんか？



6月の合言葉は、「Study on」(スタディ オン) 学校でいろいろなことを学んでいきましょう。